

地域を知ろう(4)

～高円寺一丁目庚申堂由来記～

この庚申堂は環状七号線のかたわらにひっそりと建立されておりあります。

正徳三年(一七一三)元禄七年(一六九四)の庚申塔、寛文十年(一六七〇)享保六年(一七二一)の阿弥陀塔と享保十三年(一七二八)の供養塔計五基があります。

庚申信仰は長生きするために庚申の夜は身をつつしみ諸善を行い徹夜すべきである」という中国の道教説から始まったようです。それが日本に伝ってからは中世以降仏教や神道の信仰と習合して庶民の間に広まり江戸時代には本尊を青面金剛として見ざる、聞かざる、言わざるの三猿と日月二鶏を配する塔が、一般的に造られるようになりました。

阿弥陀如来は四方極楽世界の本尊とされ他力往生の誓願をたてこの仏を信じるものは、ただ念仏を唱えれば難行苦行することなく仏の慈悲

がえられるといわれている。これらの石塔はこの辺り武州多摩郡高円寺村といわれた頃、地域の人々によって悪病退散村民安全などを祈願して建立されたものと思われまます。

昭和四十二年地域の有志の方々が交通安全を祈願して南向きだったのを現環状七号線に向けて回収いたしました。

昭和五十七年から十一月二十三日にお札やお供物を配るようになりました。

この庚申堂には鳥居があります。天祖神社の宮沢宮司さん(九十歳)のお話によると、道しるべの神様だから鳥居があってもおかしくないとのことでした。



青面金剛(しょうめんこんごう)もコロナ渦でマスクをしてる!